

帯広農高センバツ出場決定

“農高旋風”再び



牛の雪像を前に掛け声を上げる野球部員ら（24日、北海道帯広市で）

3月に開く春の選抜高校野球大会の21世紀枠が24日決まり、北海道帯広市の帯広農業高校が選ばれた。甲子園出場は19

82年の夏以降、日々の農業実習があり、全員で集まる練習日曜日だけと練習環境で、昨年の北海道大会でベスト4になっ

同校産食材を糧に甲子園出場も、農高旋風”を再び巻き起す。今年創設100周年の全国屈指の畑作地帯の十勝入りがあり、多くの農業後継者を輩出。現野球部長のうちの20人練習者だ。野球部の前康晴監督は「北海道の農業は農高の重要性も高められた」と喜びを語った。

農業土木工学科でエースの井村壘投手は、コンクリートを作って運ぶ作業で筋力を鍛えた。井村さんは「見ている人に勇気を与えられる試合をしたい」と意気込んだ。

部員らは前日に牛雪像を作成。耳標は甲子園にちなみ「540」と記した。当日は雪像の前に歓声を上げた。練習の合間に食べるのは野菜中心。生徒が育てた野菜でマネージャーがみそ汁を作り、体を温める。農高産牛乳と砂糖、きな粉入りの飲み物をプロテイン代わり

今年創設100周年の全国屈指の畑作地帯の十勝入りがあり、多くの農業後継者を輩出。現野球部長のうちの20人練習者だ。野球部の前康晴監督は「北海道の農業は農高の重要性も高められた」と喜びを語った。

農業土木工学科でエースの井村壘投手は、コンクリートを作って運ぶ作業で筋力を鍛えた。井村さんは「見ている人に勇気を与えられる試合をしたい」と意気込んだ。

同校はNHKの連続テレビ小説「なつぞら」の舞台のモデルになった学校で、日本学校農業クラブ連盟（FFJ）の連盟歌「FFJの歌」が注目された。二木浩志校長は「地区大会の時からFFJの歌を応援歌として歌った。農業高校をアピールしたい」と強調した。

sample